

☆被災地の歴史資料・文化財の保全、震災の経験の記録化と保存!!
 ★幅広いネットワークづくりを通じて、歴史・文化を復興に活かす!!
 ☆被災地から全国へ、歴史学と社会をめぐる普遍的な課題へ!!

史料ネット News Letter

第60号 2009年11月10日(金)

発行：歴史資料ネットワーク



▲ 10月4日 佐用町中上月 T家での
水損史料レスキュー風景



▲ 一宮町閨賀自治会所蔵・絵図の修復完了。
区長さん・史料ネットメンバーと記念写真

CONTENTS

●巻頭言

2009年台風9号水害による

兵庫県佐用町・宍粟市での歴史遺産保全活動について-----奥村 弘(2)

●特集 2009年8月発生台風9号による被災歴史資料の保全活動

【速報】-----松下 正和(3)

台風9号水害と資料救済-----藤木 透(7)

史料レスキュー参加記-----中岡 宏美(8)

史料ネット水害対応記録----- (9)

●日高町・田尻早苗家文書の整理作業-----中野 賢治(10)

●2009年台風9号被災史料救出活動支援募金ご協力の御礼----- (12)

2009年台風9号水害による

兵庫県佐用町・宍粟市での歴史遺産保全活動について

歴史資料ネットワーク代表委員 奥村 弘

8月9日、台風9号による豪雨で、兵庫県佐用町・宍粟市さらには岡山県下でも大きな被害が出ました。25人が亡くなられ、なお2人が行方不明となっています。この度の災害で亡くなられた方々の御冥福をお祈り申し上げます。

今回の水害による建物の被害は、家屋の全壊は173棟、半壊は962棟、さらに床上浸水も1152棟となっています。佐用町役場1階がほとんど水没するなど、公共建築についても大きな被害を受けました。地域の歴史遺産の被害も大きく、古文書や民具だけでなく、役場文書や古い家屋、土蔵にも被害が及びました。

歴史資料ネットワークは兵庫県の文化財室と連絡を取りながら、緊急対応体制に入り、佐用町教育委員会からの救援依頼の下、8月15日から、現地での保全活動に入りました。

2004年の福井や豊岡等水害の際もそうだったのですが、水がひいた後を見る度にこんな場所が水没するのかと驚かされました。現地では、突然水が湧いてきたという話を何度もうかがいました。近世以来、同じ場所においてある古文書が水損するという事態も起こっています。地球温暖化と関係するか否かは即断できませんが、これまでには考えられない事態が起きており、常識にとらわれない水害対策が歴史遺産についても必要であることを強く感じさせられています。

活動の中で、被災された方々から、近世以来現在に至る古文書や書類を伝えたい、家族の記憶である写真を残したい、蔵にある人力車等を地域の遺産として保全したい等、私たちの活動に期待する声がたくさん寄せられました。その声に応えて、従来のメンバーに加え、新たに参加した学生や大学院生が、現地や事務局で重要な役割を果たしてくれました。また今回は、豊岡等での水害の際にはなかった、近隣自治体の歴史関係の職員や兵庫県立歴史博物館の学芸員の参加がありました。さらに全国の皆様から多くのカンパをいただきました。私自身、この活動の中で災害時の地域遺産保全の輪がさらに広がり、多くの人たちに支えられていると強く実感しております。この場をかりて、活動を支えていただいた皆様にお礼を申し上げます。

現在、緊急の体制は解除しましたが、被災地での活動は、これからが重要です。保全した地域遺産を恒久的に保存してもらえるところまで私たちの活動は続きます。事後の地域調査、史料の応急整理や襖の解体などの活動は、むしろこれから本格化していきます。その点で、今年度の活動が特に重要であると考えております。今後も引き続きご支援の程よろしくお願いします。

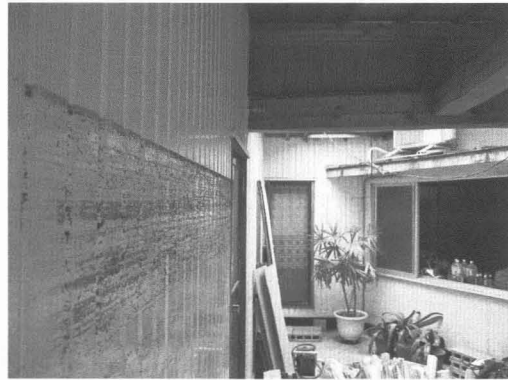
(おくむら・ひろし／歴史資料ネットワーク代表)

【速報】2009 年 8 月発生台風 9 号による 被災歴史資料の保全活動について

松下 正和

台風被害の概況

2009 年 8 月 8 日に日本の南で発生した熱帯低気圧は、北上しながら 9 日 21 時に台風 9 号となり、この熱帯低気圧及び台風の周辺の非常に湿った空気の影響で、中国、四国地方から東北地方にかけて大雨となった。とりわけ、兵庫県佐用町・宍粟市・朝来市、岡山県美作市などの各地に大きな被害をもたらした。全国で報告されている人的被害は、死者 25 名・行方不明者 2 名・負傷者 23 名、住家被害は、全壊 173 棟・半壊 974 棟・一部損壊 31 棟・床上浸水 1,152 棟・床上浸水 4,416 棟となっている（平成 21 年 9 月 15 日 20 時現在内閣府発表「平成 21 年台風 9 号による被害状況等について」より）。佐用町・宍粟市及び朝来市は兵庫県により、また美作市は岡山県により災害救助法が適用され、本台風による災害は 9 月 11 日の閣議決定により激甚災害に指定されている。以下では、前号のニュースレターに引き続き、歴史資料ネットワーク（以下、史料ネット）による本災害への対応についての概要を報告する。



▲ 佐用町久崎 G 家の浸水ライン。
最大 1.8m まで浸かったことが泥
水のあとからうかがえる。

史料ネットの初期対応

災害救助法が佐用町・宍粟市・美作市に適用されたのを受けて、史料ネットは 2004 年台風 23 号以来の直接対応をおこなうこととなった。8 月 10 日より土砂災害・河川氾濫などによる出水状況・道路被害などに関する情報収集を開始し、翌 11 日には兵庫県教育委員会文化財室と連絡を取り合い、古文書の被害についての情報提供依頼と、要請が入り次第支援を行う旨を確認した。また、同時並行的に、佐用町と宍粟市の民間所在史料に関する目録、被災地巡回時の配付チラシ、巡回調査票の作成、水損史料保全資材の調達を進める一方で、当該地区の地域史研究団体のメンバーへお見舞いとともに被害状況についての聞き取りをおこなった。

2004 年の台風 23 号の際には、被害から一週間後に巡回調査を開始したため、史料ネット事務局では当初 8 月下旬に現地入りする予定を組んでいた。しかし、12 日に兵庫県教育委員会文化財室から、佐用町教育委員会藤木透氏から 3 件の水損史料保

全情報と応急処置依頼があった旨の連絡が入った。そこで、私たちはすぐさま藤木氏に連絡を取り、15日という比較的早い段階から現地入りすることが可能となった(8月15日から9月15日までの活動詳細については前号のニュースレターを、それ以降の活動詳細については史料ネットブログを参照されたい)。10月19日現在まで、活動日数18日、参加のべ人数140名、水損史料応急処置・レクチャー件数14件(佐用町12件・宍粟市一宮町2件)、巡回調査地区6地区(佐用町力万・久崎・小赤松・仁井・円光寺、一宮町安積)である。一方で、佐用町久崎地区のD・E家文書や小赤松地区のI家文書や仁井地区区有文書、安積地区のH家文書の一部が廃棄されたとの情報も得た。とりわけ佐用川と千種川の合流地点である佐用町久崎地区以南や、揖保川流域の一宮町閏賀地区では破堤に伴い、一階部分が2m近く水没するという浸水被害があり、また佐用町中上月地区では山からの鉄砲水などによる浸水被害が多く見られた。泥水に浸かった家財道具をゴミとして処分し、一刻も早く生活復旧したいという状況下では見た目も汚く臭いを発する水損・汚損史料の廃棄もやむをえない選択であったと考えられる。その中でも、水損・汚損史料を廃棄せず保全・乾燥し、私たちに連絡してくださった所蔵者のご努力とご判断に敬意を表したい。



今回の台風対応の諸特徴

レスキュー史料の詳細については、現在も活動中であることから、次号以降のニュースレター上で報告することとする。そこで以下では、河野未央氏の論文(後述)で指摘された点を参照して、前回の台風23号対応との違い、特に被災史料の保全体制面と応急処置の技術面を中心にふれてみたい。

1. 被災地からの初の保全要請

先述のように、被災自治体である佐用町教育委員会の藤木氏からレスキュー要請があった点である。史料ネット側から被災地の文化財担当職員に連絡を取り、被災史料の保全活動を協力して行いたい旨を要請するのが常であったが、風水害の際に、史料ネットへレスキュー要請があったのは今回が初めてであった。その要因としては、藤木氏が当初より文化財の保全業務に携われたことや、史料ネット主催の水損史料ワークショップに参加されるなど、以前から史料ネットの活動に関心をもっておられたことや私たちと顔見知りであったことがあげられるだろう。しかも、被災して二日後という早い段階でレスキュー要請をいただいた。水損史料はすぐ腐敗し廃棄されやすいため、藤木氏からの早い連絡により水損史料の保全が迅速かつスムーズに展開したことは確かであろう。

また、今回は史料所蔵者から直接的に史料ネットへレスキュー要請があったことも特色である。新聞4社、テレビ1社に取り上げていただいたこともあり、これらの報道をご覧になった方々から乾燥依頼のFAXを頂戴した。宍粟市一宮町閏賀地区の区長さんからの要請で、自治会文書の乾燥と絵図の洗浄修復処置をおこない、10月17日に返却が終了した。また佐用町久崎のG家では、古文書・書画・アルバムの処置を、佐用町作用のL家では、アルバムの処置をおこなっている。

2. 県や近隣自治体とのさらなる連携

日頃から構築されている自治体間のネットワークがうまく機能した点である。とりわけ、今回も兵庫県の果たした役割は大きかった。藤木氏による史料ネットへの連絡を取り次いでいただいたのも文化財室であったが、その後の真空凍結乾燥機の手配についてもご助力いただいた。また兵庫県立考古博物館と神戸市埋蔵文化財センターには2004年台風23号の時と同様に真空凍結乾燥にご協力いただき、現在神戸市で第一陣の冷凍史料をフリーズドライしている途中である。兵庫県立歴史博物館・兵庫県立考古博物館の職員の方々には、史料レスキューの現場への同行・史料救出・整理とともに、応急処置方法についてもご教示を得た。これも前回の台風時の協力関係がうまく活かされたからである。

さらには、たつの市や福崎町など近隣自治体の職員の方々にもご参加いただいた点も特筆すべきであろう。ボランティアに参加した職員の方々は、自身の勤める地域で災害に遭遇した場合を想定し、事前に備えておきたかったとのことである。災害時の史料保全に関する意識の高さがうかがえた。

3. 資料保全やレクチャー対象の広がり

今回は民間所在の古文書だけではなく、民具や写真資料、屏風・襖下張り、書画、絵図、さらには公文書や図書資料についても救出や修復処置のレクチャーをおこなうことができた。これは県内各機関の学芸員・アーキビスト・自治体史編纂担当職員や、国立民族学博物館日高真吾氏、国文学研究資料館青木睦氏、東北芸術工科大学手代木美穂氏、京都造形芸術大学内田俊秀・伊達仁美両氏らのご参加・ご教示なくしてはできなかったことだと考えている。日本史関係者だけではなく広範な分野の専門家ネットワークが機能しつつあることを実感した。

4. 応急処置のレパトリーの広がり



▲ セルローズスポンジ。
これで給水紙の使用量が
大幅減に。

修復専門家の尾立和則氏や、兵庫県立歴史博物館の前田徹氏らの指導のもと、史料ネットの修復・乾燥処置についての応急処置技術や対応力は、前回の台風時よりも格段にアップしたことが指摘できる。

水損史料のうち分厚い帳簿類などは、即冷凍するか真空凍結乾燥するのが理想であるが、前回の台風時にはこの冷凍庫の確保に2ヶ月を要してしまった。ところが、今回は8月15日におこなった第1回目の被災史料保全活動の段階で、佐用のホームセンターにて家庭用の冷凍庫(100リットル)を購入することができた。この冷凍庫を確保により、カビ・細菌による史料劣化の進行を食い止めることができ、送風乾燥や吸水乾燥に人手を取られることがなく、かつその間に史料の救済・修復計画を落ち着いてたてることができたという点で随分と助かった。

また水損程度の軽い史料は吸水乾燥にまわすが、それでもキッチンタオルの消費量は少なくはなかった。だが、尾立氏の提案により、今回からは、キッチンタオルでの吸水は仕上げだけに使

用することとして、まず新聞紙で粗く水分を取ったあと、次はセルローズスポンジや布巾を繰り返し利用することで、紙の消費量を抑えることとした。

さらには、臭いのきつい汚損史料に対しては、史料の洗浄などにも手がけることとなった。史料洗浄は、脱臭効果を狙ったものである。実際に、佐用町久崎 G 家文書の洗浄をおこなったところ、厳密に臭気測定をしたわけではないが、感覚的に結果は良好であった。文書や書画類などのカビ取りもおこなっている。汚損史料の臭いについては、真空凍結乾燥後も常について回る問題であった。史料洗浄やカビ取り作業は、一時保管を旨とするレスキューや応急処置の範囲を越えるのではないかと判断した上での処置であった。この他にも虫喰い史料などの簡易補修もおこなっている。もちろん本格的な修復までのつなぎの処置にすぎないが、生活復興のさなかに長期的な保存をお願いするためには有効な手立てではないかと考えている。



素人にもできる安くて早くて簡単な応急処置法の必要性

他にも、常温で保管する場合には、家庭用の真空パックマシンで空気を抜き、脱酸素剤やシリカゲルを封入して空気を遮断して保管するなど、ホームセンターや百貨ショップなどで販売されている手近なグッズで応急処置ができる方策を現在も検討中である。本格的な修復はやはり専門家にまかせる他はないが、被災現場での応急処置は、出来るだけ「安く」「早く」「うまく」誰にでも可能なんだと敷居を下げて周知する方が、民間所在の被災史料は残りやすくなるのではないかと現場で活動しているとそのように感じてならない。具体的な方法は、史料ネットブログにアップしているので、皆さま方にはそちらを参照していただき、ご教示を得ながら今後ともよりよい方法の開発に努めていきたいと考えている。

また今回の水損史料保全活動も、「早すぎると叱られる、しかし遅すぎると廃棄される」というジレンマとのたたかいだった。被災後一週間と経たない現地入りに、私たちはもちろん逡巡しなかったわけではなかった。生活復興の邪魔にならないか、現地に向かうボランティアの安全確保は可能かなど、様々な事前調査と各方面との調整が必要となった。その結果、救出活動を開始することができたのである。これも私たちの史料救済のスタンス——生活復興の一環としての史料保全という考え方が地元を受け入れられた結果だと考えている。広範なネットワークと、フットワークの良さ、被災史料の受入窓口の周知が、民間に所在する史料の早期保全につながることは、今回の佐用町や宍粟市一宮町の救出事例でも明らかとなったといえよう。

それにしてもうれしかったのは、前回の台風 23 号時の被災対応を知らない若い世代が、学部生も含めてたくさんボランティアとして参加してくれたことである。着実に史料保全の輪は広がりつつあると実感している。以下には、被災地初体験の学生の感想も掲載しているので、あわせてご覧いただきたい。またお忙しい中、佐用町教育委員会の藤木透さんから感想をお寄せいただいた。この場を借りて御礼申しあげたい。

読者の皆様には、前回同様、史料ネットによる水損史料保全活動にご協力とご理解を賜り、引き続きご支援いただきたい。

最後になりましたが、被災自治体の文化財担当職員の方々は、皆復興業務で多忙にも関わらず、私たちの活動に快くご協力を賜りました。佐用町教育委員会の藤木透さんは休日を返上し、私たちの保全活動にご参加いただき、応急処置スペースや保全史料の保管場所もご提供いただきました。また宍粟市教育委員会の田路正幸さんには、安積地区の巡回調査への同行、一宮市民局内の復興支援室に史料ネットの史料保全活動を紹介し、被災地区区長へのチラシ配付もしていただきました。朝来市教育委員会の宮崎隆史さんには、ケーブルテレビやホームページなどで史料ネット活動の周知をはかってくださいました(幸い、朝来市では被災史料情報は入ってきていないとのこと)。記して感謝申し上げたいと思います。

また、美作市内では岡山史料ネットが活動を展開しました。詳細は、2009年8月29日付け『山陽新聞』朝刊33面をご覧ください。

なお、本レポートの作成に際しては、河野未央「台風9号により被災した歴史資料保全活動について」(『全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 会報』86号、2009年10月発行予定)を参照いたしました。あわせてご覧ください。

(まつした・まさかず／歴史資料ネットワーク副代表)

佐用町教育委員会藤木透氏からご寄稿いただきました。

台風9号水害と資料救済

藤木 透

8月9日夜、兵庫県西部の佐用町では、台風9号により甚大な水害を被った。15日から史料ネットの現地活動が開始され、私も被災地巡回に同行し、水損資料の救出処理等を行ってきた。このような活動は、対象が未指定文化財で個人所有物であることから行政担当者だけでは実行不可能であるし、優先業務とはなりにくいのが現状であろう。幸い私自身が文化財関係の業務に専念できたこともあるが、史料ネットの活動とリンクすることで行政サイドも動きやすくなったといえる。

被災地での反応は、“たくさんのボランティアに助けてもらった”という感謝の声が多く、史料ネットの活動もボランティアだと理解されると好意的に受け入れていただいたように思う。ただ、残念ながら“廃棄しました”という返事や、“被災ゴミの中に古文書があるのを見た”という声を聞くにつけ、災害前に史料ネットのような活動があることを周知できていれば、と感じた。

10月20日現在、被災家屋の処理はまだ続いており、水損していなくとも解体等で廃棄されようとしている地域資料は少なくない。

(ふじき・とおる／佐用町教育委員会)

史料レスキュー参加記

中岡 宏美

この度、台風 9 号で被災した史料のレスキュー活動に参加し、史料洗浄・巡回調査・解体途中の家屋からの史料救出等、様々な体験をさせていただきました。

いきなりですが、「なぜレスキュー活動に参加しようと思ったのか?」と問われることがよくあります。それに対して私は「大学の講義で話を聞き、以前から関心を持っていたから」と答えています。そんな中、ふと「あなたはなぜレスキュー活動に参加するのか?」と問われたらどうなのだろうか、という思いを抱きました。そのようなことは実際にレスキュー活動に参加するまで考えたことがありませんでした。そこで、ここではなぜ史料レスキュー活動を行うのかについて、今回の体験を踏まえて考えたことを少し述べさせていただきます。

言うまでもないことですが、歴史学は史料ありきの学問あり、何十年・何百年にもわたって受け継がれてきた史料をもとに、私たちは今日本史を研究しています。それはこれまで史料を残していくための努力が様々な形でなされてきたからこそ、可能となったことであると思います。

それならば、たとえ被災した史料であっても、残していくための出来る限りの努力をするべきなのではないでしょうか。泥まみれになったり、ボロボロになってしまったりしたものであっても、かけがえのない大切な歴史資料です。私が参加させていただいた中でも、救出・修復した史料からその地域や家について、いくつか興味深い事実を知ることがありました。史料は、水損・汚損してしまってもなお、我々に歴史を語ってくれるのです。

そのことは、日本史を研究する者にとってのみならず、その史料が受け継がれてきた地域の人々にとっても非常に重要なことであると思います。今回の水害では史料所蔵者の方からレスキューの要請をなさったこともあったそうで、そのことから地域やその家の歴史に関する関心を感じられます。また、浸水した家を片づける際に置いておく場所がない、などという理由でたくさんの史料が捨てられてしまったようですが、そういった場合でもおそらく地域やその家の歴史に全く関心がなかったというわけではないと思います。というのも、今回の水害で被災した史料を捨ててしまったという方の中にも、被害の様子等のお話を伺っている際に地域やその家の歴史を生き活きと語ってくださることがあったからです。そのように地域やその家の歴史に関心を持つ人々にとって、それらについて様々なことを語ってくれる史料の存在はとても重要であると思います。その他にも住民の方にとって地域の史料の存在が重要な理由はたくさんあるでしょうが、今回史料レスキューの現場を体験した上で考えたのはそのようなことでした。

以上のようなことから、被災した史料を救い、後の世にも残していく出来る限りの努力をする必要があると私は思います。特に、史料の恩恵を最も受けているであろう、私たち日本史を学び研究する者にとって、そのことは果たすべき責任とも言えるのではないのでしょうか。

…と未熟な私の考えを長々と書き連ねましたが、それはともかく、ぜひ多くの方に史料レスキューの現場を体験してもらいたいと思います。中には、史料レスキューの活動に関心は持っているけれどもなかなか第一歩を踏み出せない、という方がいるかもしれませんが、そういった方は躊躇わずにどんどん参加してください。特別な技術も知識もいりません。必要なことは現場が、そしてそこで出会った人々が教えてくれます。

(なかおか・ひろみ／神戸大学文学部人文学科日本史学専修 3 回生)

史料ネット 2009 年台風 9 号 水害対応記録(2009 年 10 月 19 日現在)

日付	内容	参加者
2009/8/9	台風9号発生。	
2009/8/9-11	兵庫県佐用町・宍粟市での豪雨水害発生。 ※佐用町佐用:9 日 21 時 17 分までの 1 時間に 89mm 観測。 ※宍粟市一宮:9 日 23 時 38 分までの 1 時間に 78mm 観測。	
2009/8/11	佐用町教育委員会が 3 件の水損史料をレスキュー。	
2009/8/12	佐用町教委からの情報をうけ、史料ネットから佐用町教委・藤木透氏へ連絡。現地入りを決定。	
2009/8/13	河野未央が佐用町所在史料リストを作成。	
2009/8/14	浅利文子氏が宍粟市所在史料リストを作成。板垣貴志が史料所蔵者に対する史料保全依頼チラシを作成。	
2009/8/15	佐用町・第 1 回水損史料保全活動。佐用町教委保全分の処置。水損の激しい史料については冷凍保存。佐用町力万地区巡回調査。真空凍結乾燥機の手配を兵庫県立考古博物館に依頼。	8 名
2009/8/19	冷凍保存した水損史料を神戸市埋蔵文化財センターへ搬入。	
2009/8/29	佐用町・第 2 回水損史料保全活動(1 日目)。中上月地区巡回調査。A家の蔵から水損史料搬出。B家は家の半部分が倒壊しており史料搬出できず。建物解体時の連絡を依頼。C家は留守のため調査できず。	4 名
2009/8/30	佐用町・第 2 回水損史料保全活動(2 日目)。A家所蔵屏風の下張り剥がし。C家所蔵掛け軸・額の水損を確認。	4 名
2009/8/31	佐用町・第 2 回水損史料保全活動(3 日目)。A家所蔵写真資料のクリーニングと消毒。デジカメ撮影のうえ CD-R 作成し所蔵者に渡す。水損屏風の下張り剥がし。蔵に残る水損史料レスキューを実施。所蔵人力車・民具の保全方法等について検討。	12 名
2009/9/1	佐用町・第 2 回水損史料保全活動(4 日目)。A家所蔵史料の消毒と天日干し。水損屏風の下張り剥がし。上月地区民具保管庫を見学。久崎地区巡回調査。D家・E家にて所蔵史料廃棄の情報。佐用町社会福祉協議会を訪問し、史料所蔵者・ボランティアに対する史料保全依頼チラシの配布を依頼。	10 名
2009/9/2	神戸新聞地域ニュース面に第2回保全活動の記事掲載。同記事を見た宍粟市閏賀地区区長から、水損した区有文書のレスキュー依頼。	
2009/9/3	佐用町・第 3 回水損史料保全活動(1 日目)。A家所蔵史料の消毒、天日干し、水損屏風の下張り剥がし。久崎地区巡回調査。F家は浸水被害がなかったとの情報。C家所蔵書画について応急処置方法を所蔵者にレクチャー。	8 名
2009/9/4	佐用町・第 3 回水損史料保全活動(2 日目)。A家所蔵史料の固着展開、消毒、天日干しを実施。乾燥中の佐用町役場公文書を視察。応急処置・乾燥法についてレクチャー。 宍粟市一宮町・第1回水損史料保全活動。閏賀地区区有文書の固着展開、エタノール消毒、クリーニング。	7 名
2009/9/6	佐用町・第 4～5 回水損史料保全活動の実施をマスコミに告知。	
2009/9/7	佐用町・第 4 回水損史料保全活動。佐用町上月地区民具保管庫にある民具のクリーニング、現状調査。久崎地区G家から所蔵史料のレスキュー依頼。	18 名
2009/9/9	佐用町・第 5 回水損史料保全活動(1 日目) 久崎地区G家所蔵史料のクリーニング、固着展開。一部冷凍保存。写真資料はクリーニング、固着展開、デジカメ撮影のうえ CD-R を作成し、所蔵者に渡す。	3 名
2009/9/10	佐用町・第 5 回水損史料保全活動(2 日目)。A家所蔵史料の消毒、乾燥。 宍粟市一宮町・第 2 回水損史料保全活動。閏賀地区区有文書のクリーニング、消毒、乾燥、固着展開。中性紙箱を寄贈。一宮市民局内の復興支援室を訪問し、区長に対する史料保全依頼チラシの配布を依頼。一宮町安積地区の巡回調査。同地区H家は所蔵史料一部廃棄の情報。	5 名
2009/9/15	佐用町・第 6 回水損史料保全活動。G家所蔵史料の消毒、クリーニング。臭いが強い史料については洗浄。	7 名
2009/9/18	宍粟市一宮町・第 3 回水損史料保全活動。閏賀地区区有絵図を解体のうえ洗浄。	6 名

2009/9/19	佐用町・第 7 回水損史料保全活動(1 日目)。G家所蔵書画のクリーニング、計測、撮影。写真資料のクリーニング。古文書の洗浄、乾燥、糊付け。A家所蔵史料のクリーニング、乾燥。民具のクリーニング。	12 名
2009/9/20	佐用町・第 7 回水損史料保全活動(2 日目)。G家所蔵史料の洗浄、乾燥、糊付け。小赤松地区巡回調査。I家は所蔵史料のうち水損したものは廃棄したとの情報。J家は郷倉保管史料を廃棄したとの情報。	7 名
2009/10/4	佐用町・第 8 回水損史料保全活動(1 日目)。G家所蔵史料の洗浄・乾燥。中上月B家の母屋解体につき所蔵史料を搬出。そのうち、書籍・軸のクリーニング。	8 名
2009/10/5	佐用町・第 8 回水損史料保全活動(2 日目)。仁位地区巡回調査。区有文書一部廃棄の情報。K家は史料の被害はなかったとの情報。円光寺地区巡回調査。区有文書の水損被害はなかったとの情報。中上月地区B家所蔵屏風の下張り剥がし。	11 名
2009/10/7	佐用町佐用地区L家からの 9/27 付レスキュー依頼に対応。	
2009/10/12	佐用町・第 9 回水損史料保全活動。佐用地区L家所蔵写真クリーニング、固着展開、デジカメ撮影のうえ CD-Rを作成し、所蔵者に渡す。	3 名
2009/10/17	宍粟市一宮町・第 4 回水損史料保全活動。洗浄のため解体した閏賀地区区有絵図の糊付け全て完了。	7 名
2009/11/2	佐用町・第 10 回水損史料保全活動(1 日目)。G家所蔵史料の洗浄・穴埋め。佐用町佐用地区巡回調査。M家は歴史資料はないとの情報。チラシを配付し、情報提供を依頼。N寺は 10/12 時点にあった庫裏が撤去。水損史料の一部を廃棄したとの情報。O家は留守。P家は水損史料は廃棄したとの情報。Q家は 10/12 時点にあった家屋が撤去。蔵のみ残る状態。引っ越し先不明のため連絡とれず。R家は 10/12 時点ですでに蔵のみで転居したもよう。	8 名
2009/11/3	佐用町・第 10 回水損史料保全活動(2 日目)。B家所蔵史料の消毒・クリーニング全て完了。目録作成について検討。G家所蔵史料の洗浄・穴埋め。L家所蔵写真クリーニング・消毒全て完了。一部デジカメ撮影。	8 名

※ニュースレター第 59 号掲載時の記録から、一部修正した箇所があります。

日高町・田尻早苗家文書の整理作業

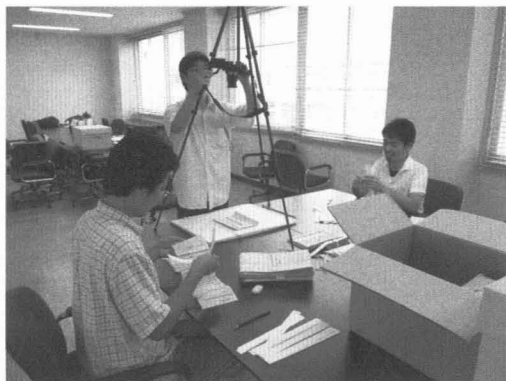
中野 賢治

2009 年 9 月 28 日、神戸大学において、兵庫県豊岡市日高町の田尻家文書の整理作業を行いました。参加者は神大の学生が中心でしたが、一般の方からもご参加いただきました。

田尻家は、2004 年の台風 23 号により蔵の 1 階部分が水損したお宅です。その蔵を解体するにあたって、史料ネットが 2005 年 8 月に段ボール 20 箱分の史料をレスキューしました。しかし、古文書自体は 2 階に保管されていたため水損しておらず、状態のよいものばかりです。レスキューした史料は、現在も豊岡市教育委員会、但馬国府・国分寺館に保管していただいております。館内の保管場所の移動にあたり仮整理を行った 2008 年度に続き、本年度は、未整理分 18 箱の整理をおこなうこととなりました。



▲ 作業に先だって撮影方法の説明をする吉川圭太史料ネット運営委員。



▲ 付箋作り・撮影・文書の出納と役割分担しての作業のようす。

整理にあたっては、史料に仮番号を付け、全体の点数と内容の概要を把握して仮目録を作成するため、準備作業としての写真撮影を優先しておこないました。作業の流れは、まず段ボールから史料を取り出し、クリーニングして番号やおおよその点数を記した付箋をつけます。そして表紙を中心に写真を撮ります。あとからその画像を見な

がら仮目録を作るため、仮目録の作成や点数把握に必要な部分があればよいという方針で進めました。

なお、撮影方法は、2009年7月27日におこなったシンポジウム（宮城資料ネットワークの被災史料保全方法）での技術交流の成果を取り入れながらおこないました。吉川圭太運営委員により撮影方法の指導と解説をしてもらいました。撮影台にはホワイトボードを使用し、一紙物の史料の四隅をマグネットで固定するなどの工夫が特徴です。

私も史料の写真撮影はさまざまなかたちでおこなってきましたが、この方法の何よりの利点は「早い」ということです。調査用の写真撮影では、文鎮・ランプや無反射ガラスなど、きれいに写すための道具や技術が必要になるのですが、今回は撮影の目的を点数と概要の把握に絞ったため、デジカメのフラッシュを利用した撮影で充分と判断しました。さらに写真撮影に必須と思われるガラス文鎮は、実際のレスキューで各地に移動することを想定した場合、割れるリスクがあります。今回使用したマグネットはそうしたリスクを回避できるだけでなく、100円ショップなどで簡単にたくさん手に入るというメリットもありました。作業終了後、参加者の方から、撮影や整理の進め方についてご意見をいただきました。こうした意見を取り入



▲ 文書を軽くクリーニングし、整理のために付箋を入れている。

れながら、レスキュー向けに特化した撮影方法として、もっと工夫を加えて洗練していければと思います。

今後の予定は、残りの段ボール箱（17箱分）の撮影を進めます。近世史料が多いので、崩し字の読める方には目録取りをしてもらいますが、崩し字は読めなくとも、付箋つけや撮影作業、史料のクリーニング作業など色んな形でお手伝いいただければ幸いです。



▲ 3つの班に分かれての撮影作業の全景。

また、事務局のある神戸大学だけではなく大阪大学でも同時並行的に撮影作業をおこない、作業の効率化を図っていきたいと思っております。次回の撮影作業は2009年11月29日(日)を予定しております。多くのみなさまのご参加をお待ちしております。また順次撮影日が決まりましたらご連絡をさしあげますので、崩し字の読解に自信のない方も是非ご参加ください。

参加希望の方はメールでお知らせしますので、s-net@lit.kobe-u.ac.jpまでご連絡下さい。

(なかの・けんじ／歴史資料ネットワーク副事務局長)

2009年台風9号被災史料救出活動支援募金ご協力の御礼

支援者一覧(敬称略・順不同・10月22日現在)

吉田晶、倉恒康一、奥山脩二、佐藤純子、谷川やす子、福澤徹三、福島雅藏、藤田明良、秋宗康子、藺田香融、志水克子、永野温子、木坂順一郎、佐賀朝、柚山俊夫、高橋浩明、砂子了一、岩城卓二、櫛木謙周、奥野武雄、上杉和彦、管良樹、秋田茂、松下佐知子、大国正美、平野歴史クラブ、長井伸仁、松尾寿、田中栄一、樋口圭、仁木宏、新潟歴史資料救済ネットワーク、北泊謙太郎、奥村芳子、兒玉州平、加藤慶一郎、造酒豊、差波亜紀子、松原誠司、中津川敬朗、竹永三男、佐藤孝之、奥村徹也、富善一敏、塚田孝、木谷幸夫、俣野好治

皆様の温かいご協力に心より感謝申し上げます。資金は、今号でご報告させていただきました歴史資料の保存・保全の活動に関する経費に使用させていただいております。最終的な活動報告は、今回の活動が一段落しましたら後に行う予定です。なお、支援募金は継続中です。今後ともご協力いただけましたら幸甚の至ります。

歴史資料ネットワーク

台風9号による被災歴史資料保全活動支援募金(郵便振替)

口座番号：00930-1-53945

加入者名：歴史資料ネットワーク

史料ネット NEWS LETTER No.60 2009年11月10日発行

編集・発行 歴史資料ネットワーク

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学文学部内 史料ネット

TEL&FAX:078-803-5565(開室時間 平日の午後1時~5時)

e-mail:s-net@lit.kobe-u.ac.jp

被災史料救出活動のようす・詳細は日々ブログに更新しています。

http://blogs.yahoo.co.jp/siryo_net